

仙台銀行代表取締役頭取

鈴木 隆



吉岡知広

イズミノオト企画

コーディネーター/チェリスト



お二人とも仙台のご出身ですね。

吉岡 はい。生まれは神奈川県小田原市ですが、父の転勤で仙台に越えてきて、それから中学卒業まで仙台で過ごしました。高校からは東京の桐朋女子高校音楽科に入学しました。

鈴木 私は生まれも仙台です。父が転勤族で、中学校時代は宮城県内で6回の転校を経験しました。高校は仙台第一高等学校を卒業し、成蹊大学文学部に進学しました。

現在のお仕事に就かれた経緯は？

吉岡 桐朋学園の大学を卒業後、ドイツに留学し、ライプツィヒ音楽演劇大学大学院を修了しました。ドイツでは学生契約でライプツィヒゲヴァントハウス管弦楽団の一員として演奏活動も行っていましたが、元の仙台フィルで募集があると聞き、仙台に戻ることを決意しました。

鈴木 私は文学部ということもあり学生時代はジャーナリストを夢見ましたが、最終的に地元での銀行を選び、現在に至ります。初心は成就しませんが、仙台銀行で素晴らしいお客様や良い仲間に出会えたので良かったと思っています。

現在の職場はどのようなところですか。

吉岡 仙台フィルは団員間の雰囲気がとても良く、それが音色の温かさにも表れていると思います。これまで積み上げてきたよい伝統を受け継ぎながら新しい音を創っていく、地元の皆様が誇りに思っているだけのようなオーケストラを目指したいですね。

鈴木 仙台銀行は1951年、中小企業支援の目的で創業しました。5年ほど前から、人で勝負する銀行をモットーに人材育成を進めてきましたが、現在は、それがさらに進化して、頑張っている職員を国内ならどこへでも自分の選んだ地域と企業に視察・研修にしたり、女性が結婚・出産しても長く働ける環境を整備したりと、働き甲斐があつて働き

やすい銀行を目指しています。そのような中で、職員自らの声で立ち上がった「じもと応援すずめ組」という、すずめ踊りの部活動がありまして、各地のお祭りに参加するなど地域貢献活動も行っています。組織の雰囲気の良い、温かさなど仙台フィルに共感できる点があります。

普段どのような音楽を聴かれますか？

吉岡 クラシックは聴き始めると深く考え込んでしまうので、リラックスしたい時にはジャズやJ-POPなどを聞いています。

鈴木 私も音楽を聴くことが好きで、移動中もよく音楽を聴いています。聴きはジャズ、その他はポップス、クラシックなど幅広く聴きます。クラシック音楽では、ちょうど今回スポットを当てるブラームスのピアノ協奏曲第2番が大好きです。素晴らしい作品だと思います。

吉岡 協奏曲第2番は私も大好きです。特にこの曲の第3楽章は、壮大なチェロの独奏とピアノとの掛け合いが特徴的で、チェリストにとっても憧れの曲です。鈴木 壮大な叙事詩というか、ドラマティックな作品です。すなわ、ぜひ仙台フィルの演奏でも聴いてみたいですね。

さて、今回の企画についてお話しください。

吉岡 私が育った泉区のホテル 仙台銀行ホールイイズミティ21から発信される、オトというイメージで、「イズミノオト」とタイトル付けました。また、一人の作曲家に焦点を当て、その生涯やひととなりを感じながら音楽を聴いていただくことで、その作品の背景や、演奏をよりお楽しみいただけるのではと考えています。それが今回の出演者は、仙台出身、仙台に縁のある方ばかりということも注目していただけだと思います。仙台から輩出されている素晴らしい演奏家の演奏を聴いて、子供たちが演奏家に憧れるきっかけになってくれたら嬉しいです。

鈴木 「地元という共通項のもと、才能に恵まれた皆さんがこれだけ集まって演奏会を開いてくれるのは、すごいことですね。」

今回の企画に当選した理由は何ですか？

吉岡 ブラームスの作品を愛する人が多いということもありますが、彼はとても興味深い生涯を送った作曲家です。伝記を読み込むほどに、その苦悩に満ちた人生と作品が繋がって、深く味わうことができると、今回、ブラームスが生涯暮ったクララ・シューマンへの想いが込められた作品などもお楽しみいただければと思います。

鈴木 吉岡さんの想いがこもったお話を伺って、ますますコンサートが楽しみにになりました。

今後の展開はどのようにお考えですか？

吉岡 このシリーズで私たち演奏家が高質な演奏を提供し続けることで、お客様には非日常の時間をお楽しみいただけると思います。私を育てくれた地元、仙台に、音楽を通してご恩返しができるかと考えております。

鈴木 仙台が東北の中心地として、また文化的にも魅力のある街として、成長・発展して欲しいという願いがあります。音楽があれば、文化の香り高い街を目指し、この企画がその翼を担っていただけることを期待しています。

ありがとうございました。

# イズミノオトモダチ

鈴木 隆  
イズミティ21のネーミングライツ企業である仙台銀行の代表取締役頭取。学生時代からバスケットボールに打ち込み、現在も年間100試合以上を観戦する。

吉岡知広  
泉区出身、在住のチェリスト。仙台フィルハーモニー管弦楽団チェロ首席奏者。イズミノオトでは企画コーディネーターを務める。好きな食べ物は豚の角煮。

(文中敬称略)



吉岡知広  
チェロ・コーディネーター



鈴木 隆  
ヴァイオリン



鈴木 康浩  
ヴァイオリン



高山圭子  
アルト



倉戸テル  
ピアノ



石丸友貴  
ピアノ

仙台市泉区出身、桐朋女子高校音楽科共学を経て桐朋学園大学音楽学部を卒業。その後ライプツィヒ音楽演劇大学大学院に在学するとともに、ライプツィヒゲヴァントハウス管弦楽団と学生契約し、在学中は同オーケストラアカデミーに在籍。第9回「ベスト・プレイヤー」第4位入賞、チェロを鈴木博幸、青木十良、藤原真里、毛利伯郎、C.ギガリの各氏に、室内楽を今井信子氏、東京アルテットに、師事。現在、仙台フィルハーモニー管弦楽団首席チェロ奏者として在籍。

1994年生まれ、仙台市出身。レオポルトモント国際コンクール第3位、日本音楽コンクール第1位等数々の入賞。桐朋学園大学リソトディプロマコースに特待生として入学。同時に慶應義塾大学で卒業。その後ドイツのクロンベルクアカデミーで研鑽を積み、ミンデン放送管、N響をはじめ数多くのオーケストラと共演を重ねる。文京楽器の協力のもと、Beate International Students of the Wilhelmshof 賞を受賞。

これまで第九メサイア、マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、短調ミサ、アルトラフティ、モーツァルトレクイエム、オラトリオを始めとする宗教曲等のアルトリソとして、仙台フィル、東京交響楽団、日本フィルなどのオーケストラと共演。その他、ドイツ歌曲を中心としたコンサートにも国内外数多く出演している。2018年にはアメリカ合衆国カリフォルニア州にある、モンテポアートセターナルカスターテイスティレンドンシーに招待される。

仙台銀行ホール イズミティ21コンサートシリーズ  
公式Facebookファンクラブ イズミノオトモダチ  
会員登録中!

出演者のメッセージやコンサートに関すること、泉エリアの様々な情報、そして会員だけのお得な情報など発信していきます。ぜひ「いいね!」してください。

URL: <https://www.facebook.com/izuminootomodachi/>

仙台銀行ホール イズミティ21 コンサートシリーズ

イズミノオト 第1回 ブラームスノ雨ノ歌

2020 / 2 / 8 SAT

チェロ・  
コーディネーター 吉岡知広

ヴァイオリン 大江馨

ヴァイオリン 鈴木康浩

アルト 高山圭子

ピアノ 倉戸テル

ピアノ 石丸友貴

開演 午後3時「開場」午後2時30分

会場 仙台銀行ホール イズミティ21 小ホール

入場料 全席指定 3,000円

10月3日(金) 一般発売

【プレイガイド】 仙台銀行ホール イズミティ21、日立システムズホール仙台、藤崎、仙台三越、ローソンチケット(Lコード22030)

【チケットに関するお問い合わせ】 仙台市市民文化事業団 総務課 TEL:022-727-1875 (平日9:30 ~ 17:00)

【公演に関するお問い合わせ】 仙台銀行ホール イズミティ21 TEL:022-375-3101 (9:30 ~ 19:30・休館日除く)

【主催】 公益財団法人仙台市市民文化事業団、KHB東日本放送 【企画制作】 仙台銀行ホール イズミティ21、HAL PLANNING 【協賛】 仙台銀行



# Johannes Brahms

イズミノオト

第1回目は

ヨハネス・ブラームス。

彼を取り巻く友情関係と  
作曲の源泉を

たどってみましょう。

## ハンブルク時代の ブラームス

自由ハンザ都市ハンブルク。市民劇場のコントラバス弾きの父と、その父よりも17歳上(！)の母のもとに、1833年ヨハネス・ブラームスは生まれました。質素な家庭の中、父はヨハネスに自分と同じように音楽で生計を立てられるよう、ヴァイオリンの手ほどきをしました。少年ヨハネスの興味は既に幼い頃からしっかりとピアノへと向いていたようです。7歳の冬には、オットー・フリードリヒ・ニコッセルの門をたたきますが、その才能にニコッセルは、彼の才能を決して埋もれさせたいなら、二人の献身的な指導を受けたことで、ドイツの伝統的な音楽教育の基礎を十分に学ぶことが出来たのです。

当時のハンブルクは大火に見舞われるなど、苦しい経済状況でした。父の楽隊仕事だけでは足りず、母や姉たちがお針子や小間使いをしながら生計を支えていました。そしてヨハネスも音楽の勉強を続けつつ、13歳から酒場やダンスホールでピアノ弾きとして働くことで生活を支えます。

この時期、ハンガリーのヴァイオリニスト、エドゥワルト・レマーニとの出会いがヨハネスに大きな影響を与えます。愛国の情熱に燃えるレマーニとの演奏活動は、のちのヨハネスの「ハンガリー舞曲」誕生の礎となります。また同じころ、ヨハネスはヨーゼフ・ヨアヒムという生涯の友を得ています。晩年に至るまでその作曲活動において助言を求めることとなる稀代のヴァイオリニストでした。

## 「新しい道」

### ーシューマン夫妻との出会いー

1853年9月30日、ヨハネスはその前年からデュッセルドルフに住むシューマン夫妻のもとを訪ねます。ヨハネス20歳。亜麻色の髪に青い目、青白い肌をもつ純真で美しき青年だったそうです。一方、ロベルトは43歳。ヨハネスが、自作の「ピアノナタ」をひとしきり弾いたところで、「妻にも聴かせたい」と、クララを部屋に迎え入れます。

クララはその日の日記に「神が既製品として、この世に送ったとは思えない。」とヨハネスの資質を絶賛しています。そしてロベルトもまた「ごく久しぶりに自らペンをとり、かの有名な『新しい道』という紹介文を『音楽新報』に寄せたのです。この『音楽新報』はロベルト・シューマンが創刊した音楽誌で、ペーター・ヴェン崇拝をうちたて、シューベルト再考を促し、天才シヨパンを称賛するなど、当時の多くの音楽関係者が読んでいたものでした。そこに、ロベルトは、この若き才能を惜しみなく賞賛し、紹介したのです。

「そして彼は来た。優雅と英雄の女神にゆりか」を守られて育ってきた若者が。その名はヨハネス・ブラームス。ロベルトはさらに自身と付き合ひのある出版社に、無名のブラームスを紹介し、彼のピアノソナタの作品1-5を立て続けに出版させました。ロベルトの思いついた推薦のおかげで、ヨハネスはたちまち楽壇へとデビューすることとなりました。

## ロベルトとの別れ、 シューマン一家とヨハネス

ヨハネスを世に送り出した翌年、ロベルトは、デュッセルドルフを流れるライン川に投身自殺をはかります。幸いにも命をとりとめたものの、精神的に身も心も消耗しきったロベルトは、ボンの精神病院への入院を余儀なくされました。その当時、6人の子供と、さらに身重の状態だったクララは、悲嘆にくれる間もなく、おそらく音楽史上最初のワーキングマザーとして生計を支えるため演奏活動を精力的に行いました。ロベルトとの結婚前か、クララは、リストと並ぶほどの人気ピアニストだったのです。

今でいう「ワンオペ育児」に身をやつしながら各地を飛び回って演奏会をする間、ヨハネスは、シューマンの家で子守や家事の手伝いをしながら作曲活動に動んだといえます。有名な「ブラームスの子守歌」も、この時にシューマン夫妻の子どものために書かれています。

1856年、遂に回復することなくシューマンは47歳で世を去りました。あまりにも悲しいこの別れはヨハネスにも大きなショックを与えます。当時36歳のクララは、7人の子どもを抱え未亡人となりました。ヨハネスは、強く優しき母であり時に働き疲れる女性であり、芸術作品に対するよき理解者でもあったクララの傍に寄り添い、支えます。クララが亡くなるまで二人の間には、800通を超える往復書簡が残っていますが、互いの呼び名は「敬愛する奥様」から「最愛のクララ」へ。そして「親愛なるブラームスさん」から「愛するヨハネス」へ変化し、その距離感の変化を知ることが出来ます。ヨハネスにとって唯一無二の芸術のミューズであったクララ。それゆえ、クララの誕生日である9月13日は、クララの誕生日のためヨハネスが送る数々の名曲の誕生日ともなっていくのです。



1810年  
ロベルト・シューマン

ツヴィツカウに生まれる

1819年  
クララ・シューマン(ヴァイク)

ライプツィヒに生まれる

1831年  
ヨーゼフ・ヨアヒム

ハンガリー・キットゼーに生まれる

1833年  
ヨハネス・ブラームス

ハンブルクに生まれる

1840年  
ブラームスピアノを始める

1846年  
ハンブルクの居酒屋でピアノ演奏を始める

1850年  
レマーニとの最初の演奏旅行ヨアヒムと出会う

シューマン夫妻と出会う

シューマンが『音楽新報』に「新しい道」寄稿

ピアノソナタ 第1番 作品1 作曲



シューマン夫妻

1854年  
シューマン投身自殺

1856年  
シューマン没



クララ・シューマンと子どもたち

1859年  
ヨアヒムの指揮で、ピアノ協奏曲 第1番

作品15を初演。恋人アガータと別離

1865年  
母の死。チェロソナタ 第1番 作品38 作曲

弦楽六重奏曲 第2番 作品36 作曲

ホルン三重奏曲 作品40 作曲

1867年  
ドイツ・レクイエム 作品45 初演

1871年  
ウイーン楽友協会音楽監督に就任

1872年  
父の死

1873年  
歌曲「雨の歌」作品59 作曲

1874年  
ピアノ四重奏曲 第3番 作品60 作曲

1876年  
交響曲 第1番 作品68 初演

1877年  
夏の時期をベルチツッパで過ごし、  
交響曲 第2番 作品73 を作曲

1879年  
ヴァイオリン協奏曲 作品77 作曲

ヨアヒムによって初演される  
ヴァイオリンソナタ 第1番 作品78 作曲



ヨーゼフ・ヨアヒム

1884年  
アルト、ヴァイオラのための2つの小品 作品91 作曲

1893年  
6つのピアノ小品 作品118 作曲

1894年  
クラリネット(ヴァイオラ)ソナタ 作品120 作曲

1896年  
クララの死。 4つの厳粛な歌 作品121 作曲

1897年  
ブラームス 64歳で没

# Johannes Brahms

## ブラームス イズミノオト

「チェロソナタ 第1番」この作曲途中に、ブラームスは最愛の母を亡くしています。貧しいながら教育に力を尽くしてくれた母の存在あつてこそ、今日のブラームスがあつたわけでその喪失感は大きかったに違いありません。同年に書かれた「ホルンソナタ」同様、暗い影を落としています。

また、1879年には、ロベルトとクララの間生まれた末息子のフレックスが病気で亡くなります。ロベルトによく似ていたこの末子をクララはとりわけかわいがっていたようです。子供に先立たれた悲しみにくれるクララに、ブラームスは心からの哀悼と愛情をもって手紙を書き、そして「ヴァイオリンソナタ 第1番」の譜面を同封します。その3楽章にはかつて、クララが好きだといった歌曲「雨の歌」を用い、2楽章の冒頭には、クララをいたわり慰めるという言葉が寄せられています。クララはその楽譜を受け取つてすぐにピアノで奏でました。ブラームスの意図したとおり、クララは3楽章の旋律の中に自ら愛した歌曲を見つけたでしょう。(中略)私は心の中であなたの手を握り人は他にないでしょう。

「アルトとヴァイオラによる2つの歌」は、深い友情で結ばれたヨアヒムの長男誕生を祝つて作曲されたものでした。ヨハネスが愛した中音域が駆使された美しい曲です。第2曲は、ドイツに伝わる親しみあるメロディに始まり、生まれたばかりのイエスを氣遣う母親マリアが静けさに歌う「聖なる子守歌」というタイトルを持ち、誕生日にはびつたりな贈り物となりました。

「ピアノ四重奏曲 第3番 作品60」は、精神的に出口を失ったかのような陰鬱な空気にはじまります。ピアノで放たれる「ド」の音は、ピストルの音。そう想起させるようになったのは、ブラームス自身が出版社ジムロツクに宛てた手紙で、この楽譜の表紙に、頭にピストルをあてた男の絵を描いてはどうかと冗談も言えない内容をしたためていたことでした。一方で、3楽章は、後に完成する交響曲 第1番の2楽章に登場するヴァイオリンとオーボエのソロのメロディを思わせるような美しい憧れに満ちた緩徐楽章となっていることも見逃せません。作品それぞれに、ブラームスの人生が背景にあり、ドイツの伝統の形式を守られた絶対音楽でありながらも、人の心の琴線に触れる理由がそこにはあるのです。

## さよなら、 ブラームス

「6つのピアノのための小品 作品1-18」は、ごく晩年の作品です。この頃、親しい友人の死や、家族の死など悲しい出来事と、友人との不和から偏屈よばわりされて孤独感を感じていたことは音楽にも色濃く表れています。心の中の動きそのものを音楽に絞り出して描くようにヨハネスは最後のピアノ作品集を書き上げています。ヨハネスは自分の作品の「断捨離」で過去の習作や作品のスケッチなどを自らすべて焼き捨ててしまします。自分にも厳しい人だったのかもしれない。また、交響曲 第1番を書き上げるまでに20年かかったという話があるように、とても慎重に推敲に推敲を重ねて作品を書き上げる人だったようです。一方で、作品を書こうというモチベーションが、

友人たちのお祝いや悲しみに寄り添うものであったこと、またそれらの作品を友人たちがしつかりと批評しあい、練り上げられていたことが窺えます。

1896年、最愛の人、クララが亡くなります。

ヨハネスには、弦楽六重奏曲 第2番でも知られるアガータ・フォン・シーボルトとの恋や、シューマン夫妻の三女ユリエの恋などの話もありますが、結果的に生涯独身を通しました。憧れ、恋、尊敬、信頼、愛の対象であつたと思われるクララ。彼女に對し彼はそのほかの誰との関係性とも違う形で付き合い続けたことが二人の書簡と音楽から読み取れます。40年もの間の付き合いの中には、時に疎遠になることもあつたようですが、音楽史上でも、シューマン夫妻と、ヨアヒム、そして、ブラームスの4人の友情関係は多くの傑作の「創作の泉」となりました。

クララの死後、ヨハネスはその役目を終えたかのように力を落としていき、後を追うようにして、1897年にその生涯を

